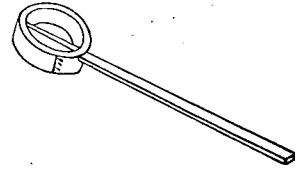


搔器



〔海人藻芥〕湯屋風呂ニテ進退ノ事湯ヲ汲搔筒懸ル所へ添左手手ニ湯ヲ添テ懸ル也、不添手バ湯飛汁散、近處無骨ナル者也。○下

○按ズルニ、搔筒ハ即チ搔器ト同物ナルベシ、

〔諺話浮世風呂四編上〕秋の時候

先刻風呂へ入たる俳諧師、水舟のわきにかゝみゐて、升から直に水をうちかけて、坊主あたまをくるくると廻しながら、氣味のよささうに、手であらひをる、

〔錢湯來歴〕湯語教

從朝暗内來戸擲 打晚五ツ來ますぢちてがひ樹擬

〔女重寶記五〕嗽茶碗うがひちやわん

〔類聚名義抄五〕漱ウカフ

〔下學集下〕鵜飼ウカイ嗽也

〔饅頭屋本節用集字〕鵜飼ウカイ

〔善庵隨筆〕笈埃隨筆ニ、五山にて、毎日早天に方丈より祖師前へ供膳あり、先拂曉に銅盤に湯

升

嗽茶碗